資　料　３

平成２０年８月７日
まちづくり調整・都市整備委員会
都　市　整　備　局

横浜駅周辺大改造計画について

１　目的・背景

目的

市民と共有する将来像を見据え、「横浜の玄関口としてふさわしいまちづくり」の指針となる計画を策定する。

背景

① 西口周辺建物の老朽化
② みなとみらい21地区の開発進展に伴う一体的なまちづくりの必要性
③ 神奈川東部方面線の事業化に伴うまちへの影響
④ 平成 16 年台風 22 号による河川の溢水

２ 平成２０年度計画検討体制

横浜駅周辺大改造　計画づくり委員会
委員長：小林　重敬教授（武蔵工業大学）
設置：平成１９年５月
平成２０年度４回開催予定

横浜駅周辺まちづくり懇談会
座長：金田副市長
設置：平成１９年２月

- 計画調整会議　※
  ３分科会長
  ＋議題に関連する委員
- 河川分科会
  分科会長：宮村　忠教授
  (関東学院大学)
- 交通分科会
  分科会長：岸井　隆幸教授
  （日本大学）
- エリアマネジメント分科会
  分科会長：小林　重敬教授
  （武蔵工業大学）

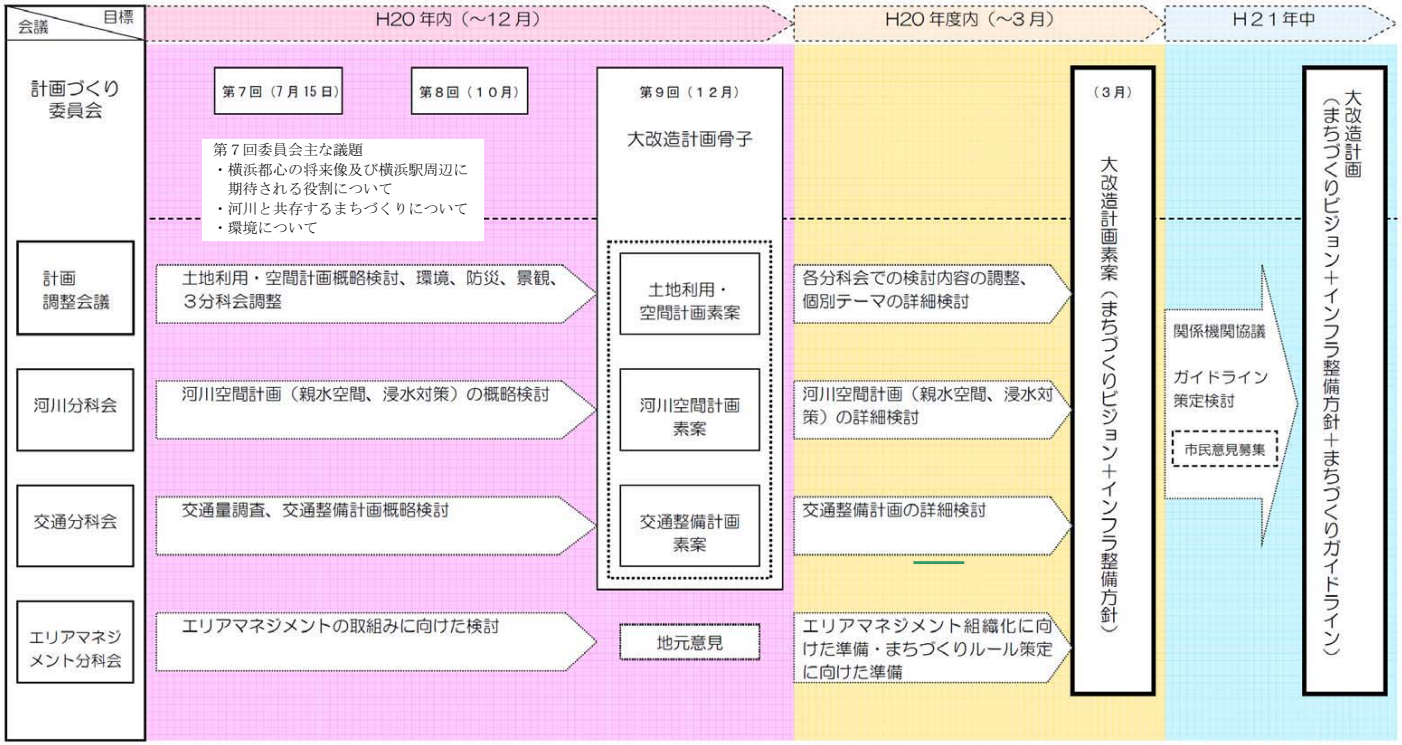
※平成 20 年度設置

３ 平成１９年度のとりまとめ（別紙参照）

４ 平成２０年度計画策定にあたって

- 平成２０年度は「平成１９年度のとりまとめ」に基づき、計画の具体化を進めます。
- １２月に計画骨子、２１年３月に計画素案を作成し、平成２１年度に「大改造計画」としてとりまとめてまいります。
- 河川・交通・エリアマネジメントに関する個々の課題については昨年度に引き続き、分科会で専門的検討を行い、計画の策定をすすめてまいります。
- 環境・緑、防災、景観などの課題について具体的検討に着手し、計画づくり委員会ならびに計画調整会議等で議論し、計画に反映させます。
- 計画検討分野・関係者が多岐にわたるため、国・県・市の関係部局等と十分協議を行います。
- 計画素案の策定にあたっては、地元や市会からも御意見等をいただきながら、取りまとめてまいります。

▼ 計画策定のスケジュール（案）



（別紙）横浜駅周辺大改造計画について　平成 19 年度とりまとめ　より抜粋

Ⅰ　計画策定にあたって

□大改造の必要性

・横浜都心の一体化が進み、新たなまちづくりの段階を迎えている。
・自然災害に対する脆弱性、道路等の基盤不足などが、災害時に、首都圏全体の機能に大きな影響を与える可能性がある。
・再国際化される羽田空港への近接性など、横浜都心が持つ資源を活用し、新たな価値を広く世界へ発信することが必要。
・「横浜ブランド」を確立し、持続的に発展できるまちを実現する必要性。
・環境問題の深刻化が進む中、環境に配慮したまちづくりを行い、地球環境へ貢献する必要がある。
・地区の更新時期にあわせて、河川、道路、鉄道、再開発等のまちづくりを一体的に扱い課題解決に取り組む必要がある。

▽横浜駅周辺の現状

・災害に対する脆弱性

横浜駅周辺は、西口を中心に昭和３０年～４０年代にかけて建設された施設が多く、地震に対する安全度が低い状態にあります。また、平成１６年１０月には台風の影響により河川が氾濫する等、治水安全度にも課題を抱えています。

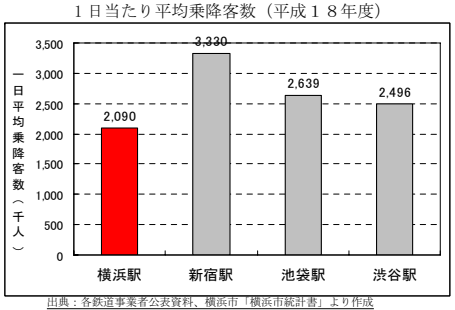
・まちとしての魅力不足

横浜駅周辺では、文化・娯楽施設等が他の主要ターミナル駅に比べて少ない状況にあります。また、まち全体がわかりにくく、歩いて楽しい歩行空間や集い憩える広場空間が不足しています。

・首都圏有数のターミナル

横浜駅は、東京都区部の主要拠点と直結する５路線を含む９路線が乗り入れ、１日２００万人が利用する首都圏第４位のターミナル駅です。また、横浜駅周辺のオフィス空室率は低く、新宿など東京都区部の業務集積地と比べて、同程度の水準にあり、企業の立地ニーズは高くなっています。

１日当たり平均乗降客数（平成１８年度）



出典：各鉄道事業者公表資料、横浜市「横浜市統計書」より作成
(注)ＪＲ東日本の公表数値は乗車人員であるため、２倍して乗降客数とした。

・隣接地区における開発進展

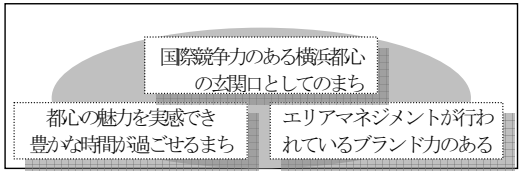
ここ数年、隣接するポートサイド地区、みなとみらい２１地区における開発が急速に進展しています。これらの開発動向を踏まえ、横浜駅周辺地区の役割や動線について検討が必要となっています。

Ⅱ　まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念

1. 安全安心を実感できるまちを目指します。
2. 都市機能の強化と新たな魅力を創出します。
3. 新たな環境の創造に取り組みます。
4. エリアマネジメントによるまちの運営を目指します。

Ⅲ　まちの将来像



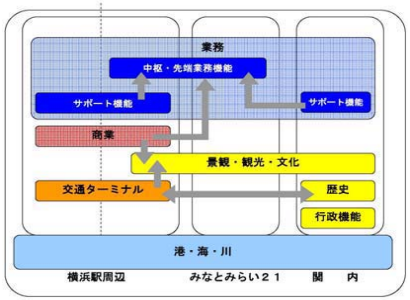
□まちの将来像イメージ

■首都圏の中の横浜都心

空港への近接性、鉄道ネットワークの充実等を活かし、東京都心や空港との関係を意識しながら、横浜都心での取り組みを検討していきます。

■横浜都心の中での横浜駅周辺の役割

関内、みなとみらい２１、横浜駅周辺それぞれの魅力が重層的に発揮されるよう、各地区の役割分担を考え、横浜駅周辺の役割を検討していきます。



Ⅳ 分野毎の将来像イメージ

□土地利用

センターゾーン

・駅やバスターミナルなどの交通施設を中心とし、大規模な商業・業務施設と広場や歩行者空間による立体的かつ高度な土地利用を図っていきます。

中核的業務ゾーン

・日本を代表する企業や国際的な企業の中枢機能、研究機能の集積とともに、次代を担うベンチャー企業等の集積を図っていきます。

新都市機能ゾーン

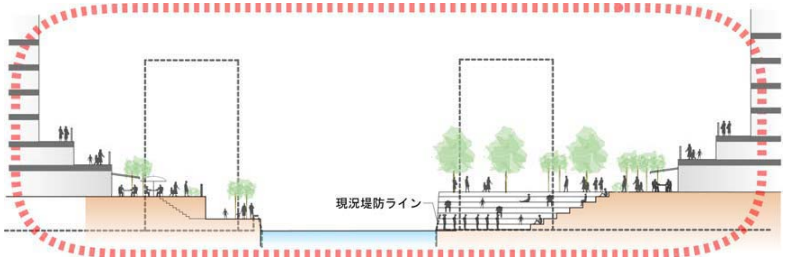
・商業・業務機能の集積をしつつ、これからの横浜の「都市ブランド」を象徴するような新たな都市機能を組み込んでいきます。

水際ゾーン

・広場や歩行者空間と商業、業務、文化施設やアミューズメント施設等により、賑わいとやすらぎが感じられる親水空間の形成を図ります。

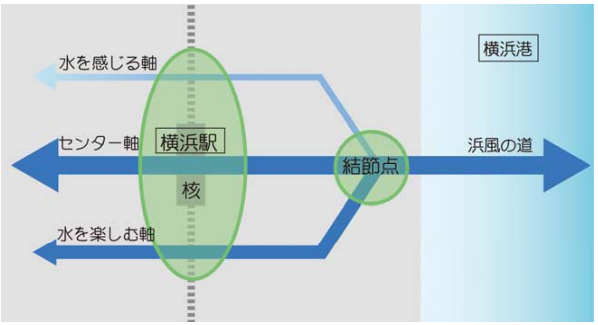
商業・業務・文化機能、駐車場等（中枢業務機能をサポートする機能等）

□河川と共存するまち（水を楽しむ軸・水を感じる軸

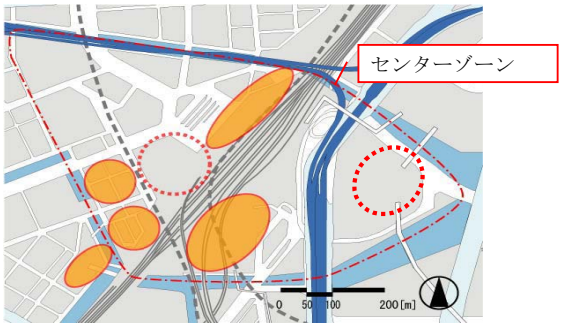


□魅力ある空間軸の形成・まちの拠点整備

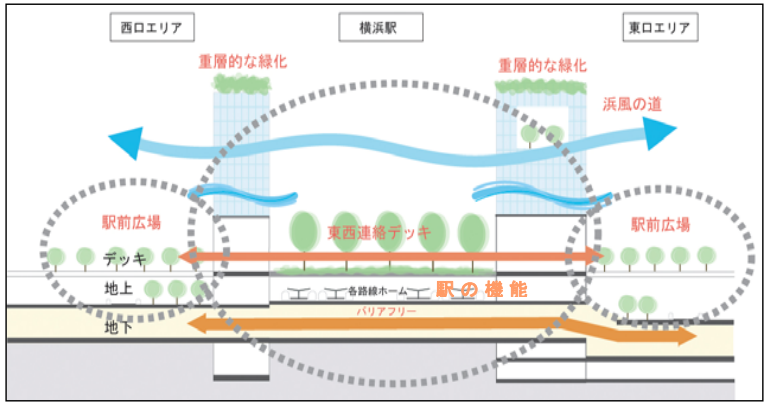
〈シンボル軸と拠点整備イメージ〉



〈先行開発エリアイメージ〉



□国際都市横浜の玄関口としての横浜駅（まちの拠点、センター軸）



■公共交通優先の歩行者中心のまちづくり

＜公共交通優先の歩行者中心のまちづくりイメージ＞

＜歩行者通路ネットワークイメージ＞